平 成 24 年 度　教 育 研 究 業 績 書

氏名　　高橋　春成

最終学歴	広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位修得	
取得学位	博士（文学）	
所属学会	日本地理学会、人文地理学会、地理科学学会、ヒトと動物の関係学会、野生生物保護学会、生き物文化誌学会、日本哺乳類学会、広島史学研究会、棚田学会など	
専門分野	生物地理学、文化地理学	
研究課題	人と生き物の歴史・文化的な関係、地域づくりと生き物、棚田や里山などの土地利用とその変化	
授業科目	学部担当科目	・ 生物地理学（前期） ・ 環境地理学（後期 ・ 地理学演習（通年） ・ 地理学卒業演習（通年）
	大学院修士課程 担当科目 （博士前期課程含）	・地域環境特論（通年）
	大学院博士後期課程 担当科目	
	通信教育部担当科目	・ 環境論
【研究上の特記事項】	①江戸時代などに造られたイノシシやシカの農業被害対策用の石積みや土盛り（シシ垣）の遺構の保存と活用を目的に「シシ垣ネットワーク」を組織し（シシ垣ネットワーク代表）、毎年各地で「シシ垣サミット」を開催している。また、琵琶湖の集水域である河川や源流の大切さを啓発する活動団体「びわ湖の森の生き物研究会」に属し（会長）、各種の啓発活動を行っている。　②「独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者」。　③農林水産省競争的資金「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の審査専門評価委員、「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業研究課題評価分科会」の委員。④IUCN（国際自然保護連合）のWild Pigs Specialist Groupメンバー。	
【教育上の特記事項】	ゼミ活動では、「人と生き物の歴史・文化的な関わり」、「人と生き物の共生」、「棚田や里山の土地利用と変化」などをテーマに、現地調査を行い、実践的な教育を展開している。自動撮影カメラ、GPSなどの機材を導入し、調査対象の生き物の撮影や捕獲も行っている。現地調査では、地元の住民や行政機関との連携を図っている。地域の生活に関する調査では、地元住民からの聞き取り調査や体験学習を重視している。	
【社会的活動】	①【学会関係】：地理科学学会評議員、人文地理学会評議員、ヒトと動物の関係学会評議員、広島史学研究会評議員、シシ垣ネットワーク代表、、びわ湖の森の生き物研究会会長、「高原の自然史」（広島県北広島町教育委員会）編集委員　②【審議会委員など】：農林水産省「農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー」、農林水産省「平成24年度鳥獣被害防止総合対策交付金（鳥獣被害対策基盤支援事業）審査委員会委員、大阪府イノシシ保護管理検討会会長、滋賀県イノシシ保護管理検討委員会委員長、奈良県自然環境保全審議会委員、奈良県大型獣保護管理検討会委員　③【市民講座など】：第5回シシ垣サミットを開催（シシ垣ネットワーク）（2012.12.15～16.大分県佐伯市）。滋賀県の琵琶湖博物館の講座「2012年度新琵琶湖学セミナー」で講演(2013.2.23.琵琶湖博物館)。滋賀県守山市教育委員会主催の「弥生人養成講座」で講演(2013.1.26.守山市下之郷史跡公園)。長崎県西海市教育委員会主催の「ふるさと歴史講座」で講演（2012.9.15.長崎県西海市）。滋賀県高島市マキノ資料館主催の「高島-シシ垣　今昔物語-」で講演(2012.9.22.滋賀県高島市)。滋賀県米原市教育委員会主催の「峠のシシ垣の文化財指定記念講演会」で講演(2013.3.16.滋賀県米原市)。	
【学内活動】 （学内職歴を含む）	奈良大学学生支援センター長、ハンドボール部顧問、写真研究会顧問、バトミントンサークル顧問	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) ①イノシシの分布からみた人獣交渉史:山から里、そして街へ. ② ③ ④ ⑤	共著	印刷中	池谷和信編『日本地理学会ネイチャー・アンド・ソサエティ研究グループ監修　現代の生き物文化-地理学からの地平-』海青社.	近年のイノシシの分布拡大を、里山や里地の土地利用や生活様式の変化から分析した。住宅地や市街地などに出没するイノシシの行動要因についても焦点をあてた。
(学術論文) ①地理学と野生動物問題 ②瀬戸内海の島嶼部に分布拡大するイノシシ ③ ④ ⑤	単著 単著	2012/10/1 2013/3/31	人文地理 奈良大地理	地理学の学界で野生動物問題がのように扱われてきたか、内外の研究例を整理・分析した。さらに、我国を事例として、今後重要となるテーマ、注目すべきテーマについて論じた。 近年のイノシシの分布拡大の中で、海を泳いで周辺の島嶼部に分布拡大するイノシシに焦点をあてた。その要因、新たにイノシシの侵入を受けた島嶼部での農業などの被害問題と対応のあり方についても検討した。
(学会発表) ①人の関与と野生動物 ② ③ ④ ⑤	単著	2012/5/27	第4回びわ湖の森の生き物研究会シンポジウム	狩猟や家畜化とその伝播、人の土地利用に影響を受ける野生動物の分布、そのような中で生じる野生動物問題と共生の在り方などについて、内外の事例をあげ論じた。
(その他) ①書評:池谷和信編『日本列島の野生生物と人』世界思想社. ②シシ垣ネットワークの活動 ③ ④ ⑤	単著 単著	2012/7/1 2012/12/15	地理学評論 第5回シシ垣サミット大分大会資料集	生き物との関わりにみられる地域の文化である在来知に注目し、そのような文化の多様性の重要性に注目する斬新な書物であることを指摘した。 今回で5回目を迎えるシシ垣サミットにおいて、シシ垣の保存と活用の重要性を、これまでの取り組みをふまえて指摘した。